

高松国際ピアノコンファイナリスト ナロジツカさん

思いやりの心 音にのせ

2月に行われた第5回高松国際ピアノコンクールのファイナリストで、ウクライナ出身のマリア・ナロジツカさん(35)が25日、高松市松並町の鶴尾小学校(田中義人校長)を訪れ、演奏会を開いた。集まった1〜6年の児童約140人を前にクラシックの名曲を情感たっぷりに奏で、心が安らぐ音楽の魅力を伝えた。

高松の2小学校で演奏会



児童を前に豊かな音色を響かせるマリア・ナロジツカさん
—高松市松並町、鶴尾小

演奏会は同コンクール組織委が行う推進事業の一環。4年に1度、世界のピアニストが高松に集うコンクールの知名度を高めるとともに、子どもたちに音楽への関心や夢を持ってもらうおと、2015年から「学校訪問リサイクル」として開催している。

ナロジツカさんはドイツ在住。同コンクールで5位となるなど国際コンクールで入賞を重ね、世界各国で演奏活動を展開している。体育館であった演奏会では、ナロジツカさんがショパンの「雨だれ」やベートーベンの「エリーゼのため」など7曲を披露。児童

たちは世界で活躍するピアニストの豊かな音色にうっとりとし、聴き入り、演奏が終わる度に大きな拍手を送っていた。

演奏後は質問コーナーが設けられ、どんな気持ちでピアノに向き合っているかなどを児童が尋ねると、ナロジツカさんは「幸せを感じながら弾いている」と答えていた。ナロジツカさんの伴奏で全校生による校歌斉唱も行われた。

6年の杉本尚之君は「ピアノの音色から優しさや強さを感じた。ナロジツカさんのように自分の夢に向かって勉強を頑張りたい」と感激した様子。ナロジツカさんは「幼い子も真剣に聴いてくれて楽しかった」と振り返り、「美しい音色は人を思いやる心を育む。子どもたちにそのメッセージが伝わればうれしい」と話していた。

この日は、下笠居小(同市生島町)でも同様の演奏会が開かれた。

四国新聞 2023年9月26日

